

韓国で識字能力はどのように測られてきているのか

－ 識字調査を中心に－

金 命 貞

1. はじめに

日本では、戦後1948年と1955年に2回識字調査が行われていたものの、1964年にユネスコに対して、日本に「識字の問題は完全に解決済み」であるという報告をしたのを機に¹、識字の実態を明確にする国レベルの調査が行われることはなく、それ以降、識字率はほぼ100%であるとみなされてきた。しかし、最近となって2016年に教育機会確保法が、2019年には日本語教育推進法が引き続き制定され、識字・日本語教育に関連する法整備が進んでいる。このような動きに伴い、識字教育をめぐる施策も前進の動きをみせているが、こういった施策の土台となる識字の現状は、正確に把握できていないのも事実である。これに対して、基礎教育保障学会では、2019年12月に文部科学大臣及び法務大臣宛てに提出した「識字・基礎教育保障に関する要望書」に、「全国的な識字

1 元木健「国際識字年と日本の識字問題」日本社会教育学会編『国際識字10年と日本の識字問題』、東洋館出版社、1991年、7-9頁。また、1948年に行われた「日本人の読み書き能力調査」に関して、角知行が「『日本人の読み書き能力調査』(1948)の再検証」(『天理大学学報』56(2)、2005年)において、機能的リテラシーの観点から1948年調査の内容を検証しており、さらに、1948年調査の報告書に「リテラシー調査の継続的実施をもとめ」る提言があることを指摘し(118頁)、リテラシー調査の継続的な実施の重要性を喚起している。

能力調査を早急に行うことを求めており、関連研究を進めている状況²である。

本稿では、このような日本における課題を踏まえ、2014年から「成人文解³能力調査」を3年ごとに実施している韓国の事例から、どのように識字能力が測られてきたのかを分析する。韓国の識字調査は、1950年代からみられることから1960年代前後以降の識字調査をも視野に入れる。韓国の識字能力の測定をめぐる研究や調査を分析し、そこから日本における識字調査への手がかりを提示することを、本稿の目的と位置づける。

2. 韓国における識字調査の歴史

韓国は、1945年解放直後、非識字率が78%⁴と非常に高かったために、識字教育に力を入れていた。国文講習会⁵や「文盲退治5か年計画」の実施などで、1958年には4.1%まで非識字率は下がり、1960年代には「識字問題は完全に解決された」とされ⁶、識字が社会的・政策的イシューになることは、長い間なかった。そして、識字に関する全国的な調査も、2007年の平生教育⁷法の改正以降まで待たなければならなかった。しかし、その間、当時の統計庁や文教部などの行政機関をはじめ、研究者などによる識字調査はみられていた。

-
- 2 基礎教育保障学会「識字・基礎教育保障に関する要望書」(2019年12月16日)より。さらに、基礎教育保障学会では、2019年から日本語使用の実態調査や調査方法の開発などの研究に取り組み始めている(野山広「日本語リテラシー(読み書き)調査の開発に向けた学際的研究－基礎教育を保障する社会の構築を目指して－」『基礎教育保障学会第5回研究大会・要旨集録』2020年、9-10頁)。
 - 3 文解は、日本の識字に該当する概念である。
 - 4 尹福南「文解(識字)教育の展開－文字を学ぶ人たち－」黄宗建・小林文人・伊藤長和編著『韓国の社会教育・生涯学習－市民社会の創造に向けて－』エイデル研究所、2006年、183頁。
 - 5 国文講習会は、解放直後から始まった「政府の計画と後援による全国的な国文普及事業」で、当時の「文解教育事業」を担っていた。「区・邑・面・里・洞(引用者：韓国の行政単位)と国民学校など」で開かれ、「講習期間は大概3か月程度」であった。同上、183頁。
 - 6 同上、189頁。
 - 7 平生教育は、日本の社会教育に該当する概念である。

(1) 1970年代までの動き

韓国における識字調査の初期の頃は、非識字者を調べることを目的とし、それは2つの流れで行われた。1つは、統計庁による「人口総調査」の一部で行われた非識字率調査で、1966年と1970年に2回実施された。6歳以上の無学歴の人を対象に「文章が書けるかどうか、読めるかどうか」を直接聞く形で進められた。この調査によると、1966年の非識字率は8.9%、1970年は7%であることが分かったが、1970年代以降は人口総調査における識字関連の調査項目はなくなる⁸。

この統計庁の調査以外のもう1つの流れは、機関ごとに行われたもので⁹、12歳以上¹⁰が対象である。例えば、先述したように、文教部は、「文盲退治5か年計画」の結果として1958年の識字率を4.1%であるとしていた¹¹。この文教部の数値以外に、最初の非識字調査としていわれている中央教育研究所の「文盲者調査」がある。

これは、中央教育研究所の「全国教育実態調査」の中で行われ、「非識字者の数」を正確に把握すること、世界の状況と比較して韓国の識字問題への理解をより深めること、「非識字者の調査基準」をユネスコのそれに一致させること(ユネスコの機能的識字の概念を取り入れている)を目的としていた¹²。文献研

8 1970年以降に識字率を調べない理由として、「実質的な非識字率が約5%であるため、それほど高くないことから聞くことに意味がないことや、個人のプライバシーにかかわるもので回答に信頼度が低いこと」が理由であるとしている。국립국어원「국민의 국어능력 조사 실시 계획」(2008.1.28)、P.4。

9 同上、p.4。

10 12歳が基準となっているのは、当時「6歳から11歳までが義務教育」であることや、「教育法第140条に12-48歳までの成人の中で国文非解得者は公民学校の成人クラスに就学する義務があったからである」。中央教育研究所『文盲者調査<1959年12月31日現在>-調査研究第5輯-調査者：金宗西』大韓教育聯合會、1961년、p.4。

11 ただ、同じ時期に発表された内務部統計局の1959年の「年末常住人口調査報告書」では、非識字率が15.5%（女性21.5%、男性9.1%）となっており、文教部の統計と10%以上の開きがあった。同上、pp.11-12。

12 同上、p.1。

究とともに実際の調査に取り組み、お手紙程度のものの読み書きができる人を識字者とみなし、世帯主対象の面接で行われた。調査の結果、12歳以上の人口の22.1%が非識字者であるとされ、純文盲と半識字を合わせた非識字者の数を出している¹³。

他に、経済企画院が1960年に簡単に自分の考えを読み書き可能かどうかで調べた非識字率の結果が27.9%と出ていたり、再建国民運動本部が1962年に小学校2年生の実力をもっているかどうかで調べた非識字率が9.5%であることを発表していた(＜表1＞)。

＜表1＞ 12歳以上の非識字者調査

機関	年度	定義	調査方法	非識字率
文教部	1958	小学校2年を修了した国文解得力	下部機関から報告	4.1%
中央教育研究所	1959	ハングルの手紙程度の文章の読み書きができる	標準直接調査	22.1%
経済企画院	1960	簡単な自己意思の書き読みができる	全数直接調査	27.9%
再建国民運動	1962	小学校2年生の実力	下部機関から報告	9.5%

出展：金宗西「韓國文盲率의 檢討」『교육학연구』Vol.2, 한국교육학회, 1964년, p.19.

金宗西は、＜表1＞に対して、非識字率が機関によって違いを見せていることに、「文盲者の定義においては別に差がないが、調査結果は大きな差があり、一般的に報告書によるものは低く、直接調査は高い数値を見せている」¹⁴と指摘している。そして、このような非識字率の差を踏まえ、人口千人当たりの新聞の発行部数と男性の農業人口、国民一人当たりの所得の3つの社会経済的要因を考慮したときに、韓国の非識字率は、「22%～28%であるという結論」を出している¹⁵。

13 調査においては、性別や都市規模、年齢別の分類に沿って詳細に識字率、非識字率の数値を出している。10歳以上の人口における非識字率が20.8%、15歳以上の人口における非識字率が24.4%であるという。同上、p.28。

14 金宗西「韓國文盲率의 檢討」『교육학연구』Vol.2, 한국교육학회, 1964년, p.19.

15 同上、pp.22-23。

さらに、1975年には農村地域の識字率を調べた研究¹⁶がみられる。京畿道農村地域の婦女会(1ヶ所)による購買事業を事例に、農村女性の知的水準を調べた研究において、「国文解得の程度」の中に非識字率と計算能力を調査した項目があった。45人の女性を対象に1年間の参与観察を通して調べたもので、こういった調査方法と「購買事業の記帳能力を基準とした機能的文盲」に基づいていることは、いままでの研究とは異なる点である。この研究において、機能的非識字率は64.5%で、識字率(完全解得率)35.5%より高い数値を見せている。

以上のような初期の調査は、識字能力を詳細に調べるものというよりは、当時の社会問題であった非識字の解消を念頭に入れながら、非識字率がどれくらいあるのかを明らかにすることが主な目的であった¹⁷。従って、調査方法においても、簡単な項目で構成されることがほとんどであり、非識字率も調査機関と方法によって隔たりがみられていた。

識字の定義をめぐる綿密な検討や識字能力の測定にかかわる本格的な調査や研究は、1990年の国際識字年を前後に登場してくる。

(2) 1990年の「国際識字年」前後の動き

就学率の増加と高度経済成長の中で、識字の問題は労働運動や夜学などを中心に展開されていたが、非識字にかかわる正確な状況を把握するための調査は、1980年代に入ってから本格的にみられるようになる。

16 鄭址雄・金善堯「農村婦女會 購販事業活動過程에 나타난 農村婦女子의 知的水準」『韓國農業教育學會誌』第7巻第1號, 1975年。

17 パク・ソヨンらは、識字調査の変化について、「草創期の国内外の識字力調査は、非識字者の発掘を目標として」おり、「このときの識字調査は、正確な識字力を測定する方式ではなく、文字の読み書きができるかどうかや、学歴水準を聞く自己応答式の調査であった」という。それが、社会・経済的に発展していく中で、「求められる基礎識字力の水準が高まり、その内容も多様化し」てくると、「自己応答式調査ではなく、科学的な識字力を測定してその結果を識字教育政策に反映しようとする努力が行われるようになった」と指摘する。박소연·이지혜·허준「성인기초문해력 조사문항 개발을 위한 문해영역 및 수준설계」『平生教育學研究』Vol. 20 No. 3, 2014년, p. 32。

1) 研究者による地域の識字調査

1990年の「国際識字年」を機に、識字への社会的関心が高まる¹⁸中で、識字能力に関する動きにおいても、それまでとは違う流れが見受けられる。

1つは、研究者による識字の実態調査である。これは、全国的なものというよりは、いくつかの地域に限られたもので、こういった研究は、1987年に黄宗建によって取り組まれた「都市低所得層女性の文解問題と社会教育参加調査」にみられる。この1987年の調査は、ソウルなどの6つの都市に居住する低所得層378人の女性を対象に訪問調査で行われ、対象の約半数である48.8%が非識字者であることが分かった¹⁹。

ASPBAE²⁰の支援を受けて行われた黄の調査以降、地域の実態を調べた研究として、1975年の農村女性の識字を調べた研究に続く研究が挙げられる。鄭址雄らによって発表された「韓国農村女性の文解水準」²¹は、ソウル大学農学部による「総合農村開発のための基本要求的分析」の中で行われたもので、済州道を除く広域自治体の8つの農村地域を選定、15歳以上の女性を対象に調査を進めた。回答者は405人で、小学校3年生2学期レベルの国語と算数の問題で問題項目を作成していた。調査対象が自ら問題項目を読み上げる形で進み、「問題項目を読めないか、読んだとしても答えが書けない」ことを非識字とみなした。問題項目は、次のものである²²。

18 例えば、1988年5月に明知大学社会教育大学院主催・韓国社会教育協会後援で「都市女性の文解教育セミナー」が開催されたり（鄭址雄・崔敏浩・金性洙・任相奉「韓國農村女性の文解水準」『韓國農業教育學會誌』第21巻第1號, 1989年, p. 2）、1989年には韓国文解協会が発足している。

19 この研究は手に入れることが不可能であったために、調査内容を直接確認することができなかった。윤준채「문해력의 개념과 국내의 연구경향」『새국어생활』제19권 제2호, p. 11。

20 ASPBAE (The Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education) は、「アジア南太平洋基礎・成人教育協会」のことである。

21 鄭址雄・崔敏浩・金性洙・任相奉「韓國農村女性の文解水準」『韓國農業教育學會誌』第21巻第1号, 1989年。

22 同上, p. 3。

- ① 一番好きなテレビかラジオ番組は何ですか? _____
- ② 世界で一番行ってみたい国はどこですか? _____
- ③ 1個150ウォンするラーメンを5つ買ったらいくら払わないといけないですか? _____ウォン
- ④ 現金2千ウォンで1個に300ウォンする石鹸を何個買えますか?そして、おつりはいくらもらわないといけないですか? _____個、おつり _____ウォン
- ⑤ このまちは、どこの道のどこの郡ですか? _____道 _____郡

上記の5つの問題項目において、①②⑤のいずれか、③と④のうちの1つを正確に答えていることを「識字」とみなした。調査対象者における識字率は48.1%で非識字率51.9%より低い。

そして、1990年に出された「文解教育のための文解水準実態調査－大田地域を事例に－」というカン・サンチョルの研究²³がある。大田忠清地域の大学生の家族や小中高の教員による生徒の家族、直接訪問調査で14,046人を対象にしている。非識字者(住所や名前の読み書きができない人)は、520人で3.7%とされ、60歳以上、都市よりは農村、男性より女性が多いことを明らかにした。調査項目は名前と住所の記入、非識字の理由及びハングル学習の機会と場所の記入(該当する場合)、そしてハングルの未解得者を記入することで調査票が構成されている(他には、家族構成員や都市・農村の記入)。

このような地域を対象とした識字調査が研究者を中心に行われる中で、研究ではあるにせよ、専門の研究機関で全国規模の調査が試みられたのも、まさに、1990年前後の時期である。

2) 韓国教育開発院による一連の識字調査研究

韓国教育開発院では、1989・1990年と、2001・2002年に識字の測定ツールの開発と実際の識字調査を実施する一連の研究が取り組まれていた。

まず、1989・1990年の研究においては、1989年の『韓国人の文解実態調査研

23 강상철 「文解教育을 위한 문해수준 실태조사: 大田지역 事例」 『教育發展論叢』 Vol.12 No.1, 충남대학교, 1990년.

究1次年度』で識字調査紙の開発を行い、1990年の『韓国の文解実態と文解教育』では開発された調査ツールを用いて実際の識字調査を実施していた。

1989年の研究における識字調査紙は、基礎識字と生活機能識字、領域別の機能識字(経済、科学、職業・技術、コンピューター識字)の3つで構成、合計6つの識字調査ツールを開発した。基礎識字調査紙は、読み書き計算の3つの領域で、生活機能識字調査紙は家庭・経済生活と公共生活に区別されている。そして、デルファイ調査や400人程度の小規模の識字実態調査などの実施を経て本調査へと至る²⁴。

本調査の調査紙は、問題項目の数を減らし、実際の日常で経験できる状況から問題を作成し、文字識字と基礎識字、生活機能識字で構成されている(【参考資料①】)。具体的な問題項目の一部を紹介すると、次のとおりである²⁵。

<第1部> 次は伝統的に考えられてきた最も初歩的水準の文字識字に関する質問です。

2. 次の絵のかごの中にある柿は全部で何個ですか？



_____ 個

<第2部> 次は基礎識字水準を調べるための質問です。

4. 次の文章は広告文の一部です。どのような商品に関する広告でしょうか？ _____

蒸し暑い天气が続いている中でイライラしてきますよね？うちわで一生懸命に扇いでも、涼しくなるどころか、手だけ痛いし、汗はもっと出ませんか？

皆さんに南太平洋の涼しい海の風をお届けしたいです。ミニ電子では、90年度の新型扇風機のモデルを開発して80年度の価格である3万ウォン台で販売しています。このような良い機会を見逃さずに、今すぐ全国の代理店に連絡下さい。電話一本で配達もできます。

24 최운실·백은순·최상근『한국인의 문해실태조사연구 1차년도』한국교육개발원, 1989년. この予備調査で約13.7%の完全非識字者がいることが明らかとなった。

25 최운실·백은순『한국의 문해 실태와 문해교육』한국교육개발원, 1990년, pp.195-205より抜粋作成。

8. ミンスさんのおうちでは、昨日満期となった定期積立金5百万円をもらってきました。このお金を銀行の年間利率12.0%で定期預金に入れました。税金を引かなければ、いまから1年後にミンスさんたちは、いくらの子子を銀行からもらうことになりますか？ _____ウォン

<第3部> 次は私たちが日常生活を営んでいくうえで必要な生活機能識字を測定するための質問です。

10. チョルスさんの家は鶯市にあります。鶯市の地域番号は237で、チョルスさんのおうちの電話番号は123局に4567番です。チョルスさんの家に長距離電話を掛けるときに回すべきダイヤル番号を順番に書いて下さい。
- _____

20. 次は、私たちの日常生活でよく使われている英語又は外来語です。次の英語又は外来語の意味を空欄に書いて下さい。

- (1) ON / OFF _____
 (2) OPEN / CLOSE _____
 (3) ショッピング _____
 (4) バーゲンセール _____
 (5) モデルハウス _____

本調査は、大都市・中小都市などの地域規模に応じて、全国13歳以上の人口(1985年現在30,219,419人)の0.007%にあたる2,116人を対象に個別面談方式で実施した。1990年調査では、識字教育の実態を把握するための調査も平行して行われた。

識字調査の結果は、平均点数が20点中14.9641点であり、この平均点数より高かった15点以上の集団が識字者とされ、全体の68.2%を占めている。一方、1問も答えられなかった完全な非識字者は5.8%、完全な非識字者ではないが、大きな困難を抱える集団(1-9点)が8.1%、残りの集団が識字・基礎教育を少し受ければ識字集団へと移行できる人たちとみなされた。具体的に、日常生活をするのに必要な識字能力をもたない「基礎識字」の非識字者は9.1%(男性7.0%、女性11.0%)で、実生活を営むために必要な生活機能が身につけていない「生活機能」の非識字者は男性が6.3%、女性が11.7%であることが明らかとなった²⁶。

26 최운실·백은순『한국의 문해 실태와 문해교육』한국교육개발원, 1990년.

韓国教育開発院は、これらの研究から10年後に再び識字教育に関する研究に取り組んだ。それは、国際比較研究（『韓国成人の文解実態及びOECD国際比較調査研究』、2001年）と直接開発した調査ツールを用いた識字調査研究（『韓国成人の非文解実態調査研究』、2002年）であった。

2001年の国際比較調査研究²⁷は、1994年から1998年までにOECDの加盟国を含む20か国で行われた成人識字調査（International Adult Literacy Survey, IALS）の調査ツールを翻訳して、予備調査（6項目）と本調査で構成している。予備調査の問題項目をきちんと作成できなかった場合には、本調査に移行せず、調査は終了する。本調査は7冊で構成、調査対象はその中の1冊をもって回答することになる²⁸。散文識字と文書識字、数量識字の3つの領域を含むもので問題は作られており、本調査の問題1冊は7領域で構成、1つの領域は11問から15問である。調査は、16歳から65歳の成人1,200人を対象に実施され、調査結果は、IALSの基準に基づき、解答点数でレベル1からレベル5まで分類された。調査結果は、数量識字の平均点が最も高く、その後が散文識字、文書識字であり、それぞれの結果が他の国々との比較で分析されている。

一方、2002年の研究²⁹では、実際に開発した識字能力の測定ツールを使って調査したものであった。この調査研究では、まず、非識字・識字を区分せず、基礎識字（小学校6年生のレベルに設定）をレベル1から3までとしている。これは、非識字の概念を用いることで、識字と非識字が断絶し、非識字を排除してしまうことになるからである。ここで、識字を「連続的な段階」と位置づけているのは、注目すべきである。大都市・中小都市など地域規模に応じて票集し、20歳以上の3,135人に調査を実施した³⁰。

27 이희수 외 『한국 성인의 문해실태 및 OECD 국제비교조사연구』 한국교육개발원, 2001년.

28 問題項目は全部で114問となるが、すべてを答えるのではなく、「構造化された一部の問題項目のみに回答する」ことになる。

29 이희수 외 『한국 성인의 비문해실태 조사연구』 한국교육개발원, 2002년.

30 調査を最後まで終えなかった131人は除外したため、最終的な調査結果の分析は3,004人を対象としている。

調査項目（問題項目の構成は【参考資料②】）は、文献研究とデルファイ調査、非識字者の実態調査、専門家協議会を通じた意見収斂、そして予備調査（90人対象）を経て、調査の概略が定まった。問題は、選択式と記述式が混在し、難易度によって点数が決まっており（難易度上（1.3点：5問）、難易度中（1.0点：15問）、難易度下（0.7点、5問）、全25問となっている。問題領域は読み書き計算の3つで、基礎識字レベルを、先述したように、基礎1レベルから3レベルまでとしている。その基準は次のとおりである。

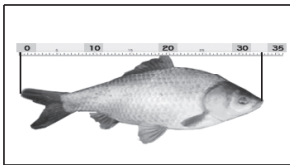
＜表2＞ 識字レベル別の点数範囲

レベル	点数範囲	
基礎1レベル	正解率20%未満	5点未満
基礎2レベル	正解率20%-80%未満	5点以上-20点未満
基礎3レベル	正解率80%以上	20点以上

出展：이희수 외 『한국 성인의 비문해실태 조사연구』 한국교육개발원, 2002년, p.91.

基礎1レベルは読み書き計算に困難を抱える水準で、2レベルは、読み書きは可能で簡単な計算ができる集団ではあるが、それが複雑になった場合は、困難を覚える水準である。一方、3レベルは、読み書き計算の能力が確保されている集団となり、識字者は基礎3レベル以上の人となる。実際の調査項目の一部は、次のとおりである³¹。

12. 普通30cm以上の魚を釣ると、「一尺あまりの大物をとった」という。キム・ドンウクさんが釣りに行って釣った魚は次のようである。キム・ドンウクさんが釣った魚は大物なのでしょうか？



- ①大物である。
- ②大物ではない。

31 이희수 외 『한국 성인의 비문해실태 조사연구』 한국교육개발원, 2002년, pp.140-150より抜粋作成。

17. 次の単語を入れて短い文章を書いて下さい。

♠例示 さば： さばがとても美味しいです。

・手紙：

答え：_____

25. 次の文章を読んで時間を計算して書いて下さい。

ソウルから出発したソン・ジョンヒさんは、天安から列車を乗り換えて、光州に行こうとしています。ソウルを9時に出発して天安には10時20分につきました。再び天安で11時30分に列車に乗って光州に到着した時間は2時15分でした。この日ソン・ジョンヒさんがソウルから光州まで行く間、列車に乗っていた時間をすべて合わせると、何時間何分でしょうか？
--

_____時間 _____分

調査結果は、平均点数は 20.18 で、平均点数以上をとった人は 2,186 人で全体の 72.8% である。逆に一間も正解できなかった人は 213 人 (7.1%) となっていた。これを識字レベルから考えると、基礎 3 レベルが全体の 74.8% の 2,247 人、2 レベルが 504 人 (16.8%)、1 レベルには 253 人 (8.4%) の結果となった。

このような韓国教育開発院による一連の調査研究は、これまで全国規模で識字調査が実施されることがなかったので、その意義は大きかったといえよう。そして、識字教育が制度化される時期に注目すべき識字調査が実施される。国立国語院による「国民の基礎文解力調査」は、「国語基本法」第 9 条に基づくものであった。

(3) 国立国語院による「国民の基礎文解力調査」(2008 年)

国立国語院は、2008 年 1 月に「国民の国語能力調査実施計画」³²を出し、「非識

32 국립국어원 「국민의 국어능력 조사 실시 계획」(2008. 1. 28)。

字率や識字能力に対する公的統計」がないこと、「国民の国語能力の低下への憂いに対する診断及び対応を整備する必要」があること、国際結婚の増加に伴い「正確な非識字率の統計」が求められていることなどを背景に取り上げながら³³、調査することを発表している。実施計画においては、5年間の連続調査で同じテーマで5年ごとに行うことが明示されているが、国立国語院による調査は、2008年に1回のみ実施され、その後行われることはなかった。

「国民の基礎文解力調査」³⁴は、国民の基礎識字を「現代社会で日常生活をおくる上で必要な文章を読んで理解する最小限の能力」と定義づけ、特に読む能力に注目している。調査ツールは、国際的な識字調査のツールの枠組みを参照し、「国民の基礎文解力調査問題項目開発枠組み」を開発した。問題項目の下位要素を、内容と過程、状況の3つに分類し、次のようにしている。

下位要素	内容	過程（認知）	状況
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散文（文学／非文学） ・ 非散文（図表、絵） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実的識字 ・ 推論的識字 ・ 批判的識字 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実用（日常生活、公的生活、メディア） ・ 教養（人文／芸術、社会／文化、科学／技術）

出展：김창원 외 『국민의 기초문해력조사』 국립국어원, 2008년, p. 18.

また、開発指針を、①問題項目の難易度は、上：中：下＝1：2：1の比率で維持しなければならない、②語彙や背景知識は成人レベルにし、認知能力や問題解決能力は義務教育を考慮して中学校3年を卒業したレベルにする、③問題項目を解くにあたって動員される認知的過程は、事実的識字：推論的識字：批判的識字＝5：3：2の比率を維持しなければならないほか、新しい問題を開發すること、選択式の25問にすることなどを定めていた。実質的な国語使用能力（識字力）を測定するために、公益広告や新聞記事、学校からのお知らせ文、テレビ番組表などを活用、言語理解力を問う選択型の問題25項目を出題、評価の問題項目（【参考資料③】）は難易度によって、上位レベル6問、中位レベ

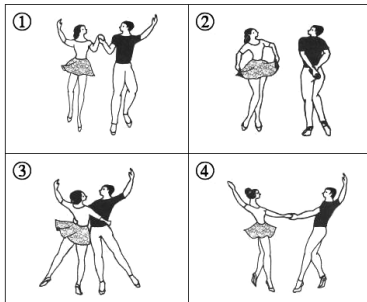
33 同上、p. 1.

34 김창원 외 『국민의 기초문해력조사』 국립국어원, 2008년.

ル13問、下位レベル6問で構成される。具体的な問題の一部を紹介すると、次のとおりである³⁵。

問題1) 次の説明に該当するダンスの動作はどれでしょうか

二人が互いに向かい合い、右のわき腹をお互いの手でとって、右の手で互いの腰を抱える。左の手は頭の上上げる。



問題2) 次の不動産の情報をみて判断した内容で正しくないのはどれですか。

団地情報
相場情報
売り物情報
マンション情報

● 面積情報

面積	112.39㎡
専用面積	95.64㎡
部屋/浴室	3つ/2つ
玄関構造	階段式

過去の売買価格(有料)
+ GO

実取引価格
+ GO

● 相場情報

■ 売買価格 9,000-11,000万ウォン

月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
売買価格	9500	9500	9500	10000	10000	10000	10000
賃貸価格	5750	5750	5750	5750	5750	5750	5750

(単位: 万ウォン)

ベクトルマンション112㎡の売買価格及び賃貸価格の推移

- ①部屋は3つ、浴室が2つのマンションである。
- ②相場情報は、約1か月ごとに更新される。
- ③3月から6月まで売買価格も賃貸価格もすべて変化はない。
- ④2月と3月の間に売買価格が1億ウォンぐらい上昇した。

35 「2008년 문해력조사 질문지」(김창원 외 『국민의 기초문해력조사』 국립국어원, 2008년, pp.122-125) より抜粋作成。

問題7) 次の天気生活指数を参考にしながらどういことをするのが一番いいと思いますか。

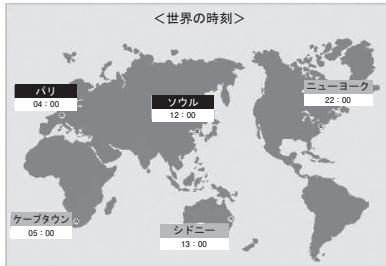
<2008年〇月〇日天気生活指数>

 <p>洗濯指数：20 あまり乾かないです</p>	 <p>お出かけ指数：30 できるだけ外出を控えて下さい</p>
 <p>洗車指数：20 洗車の効果は長く続きません</p>	 <p>傘指数：70 持ち運びやすい傘を用意</p>

- ①学校に行く子どもに傘を持っていくようにする。
- ②友達に会って近くにある山に登る。
- ③ほこりの溜まった車を隅々まで洗車する。
- ④ふとんを洗濯する。

問題17) フランス・パリで国際サッカー試合が開かれます。韓国時間の夜11時に開催されるとしたら、現地時間は何時でしょうか。

<世界の時刻>



- ①午前3時
- ②午前6時
- ③午後6時
- ④午後3時

調査は、2回の予備調査を経て、構造化された質問紙を用いた世帯訪問面接調査で、19歳から79歳までの成人12,137人(7,033人回答)を対象に実施された。この調査では識字力を5つに分けており、最終的な調査結果は、<表3>のとおりである。

＜表3＞ 問題別の点数分析

	段階	点数	識字力の程度	比率	備考
識字力不振 (7%)	0レベル (完全非識字者)		- 読み書き能力が全くない	1.7%	
	1レベル (半識字者)	24点以下	- 一文字や単語は読めるが、文章の理解能力はほとんどない	5.3%	中学生平均の30%以下
基礎識字力保有 (93%)	2レベル	28～48点	- 招待状、名刺など、簡単な生活文を読んで得たい情報を得ることができる - 多少長い文章や複雑な文章は理解できない	21.1%	中学生平均の30～60%
	3レベル	52～72点	- 新聞記事や広告、公共機関の書式など、日常的な生活文をほとんど理解できる - 法令文など、複雑な文書の理解や推論能力は不足している	36.8%	中学生平均の70～80%
	4レベル	76点以上	- 長くて難しい文章や内容が複雑な文章も充分理解できる - 文章に直接表れていない内容も推論できる	35.1%	中学生平均水準以上

出展：김창원 외 『국민의 기초문해력조사』 국립국어원, 2008년, p. 66.

調査の平均点数は63.6点で、中学生平均77.4点を大きく下回る³⁶。調査結果は、地域、地域規模、性別、年齢別、所得水準、学歴に分けて、基礎識字力が詳しく分析され、70代は「5人に1人が非識字者」であるのに対し、20代から40代までは少ないことや、男性(0.5%)より女性(2.7%)の非識字者が多いとしている³⁷。＜表3＞で分かるように、「1.7%の非識字者と5.3%に上る識字力不振者を合わせる、成人の7%にあたる約260万人の識字力が相当不足している」³⁸ことを明らかにした。

1990年代以降に韓国教育開発院による調査が行われたものの、国の機関に

36 김창원 외 『국민의 기초문해력조사』 국립국어원, 2008년, p. 65.

37 同上, p. 116.

38 同上, p. 66.

よる識字能力調査としては、1970年の統計庁の人口総調査以来のものであり、調査ツールが独自に開発され実施されたことの意義は大きいであろう。韓国独自の識字調査の測定ツールの開発は、このように何度も試みられていたが、2000年代以降となると、調査の根拠となる法的整備が進み、1回で終わっていた識字調査から一転、継続した識字調査が行われるようになる。2014年の「成人文解能力調査」の実施により、長い間空白であった識字の実態調査は安定的で継続的なものとして取り組まれるようになる。

3. 「成人文解能力調査」の内容と測定方法

「成人文解能力調査」は、2007年の平生教育法改正をもって法的根拠が整備されたもので、平生教育法第19条第4項第1号（国家平生教育振興院の「平生教育振興のための支援及び調査業務」遂行）に基づくものである。国家平生教育振興院の中に、国家文解教育センターが2016年に設立されると、同年8月に平生教育法施行令第73条の2第1項第2号に、国家文解教育センターの「識字教育促進のための各種研究、調査及び広報」が新設されることになる。ほかに、統計法第18条「統計作成の承認」にも依拠するもので、国の公式統計として位置づけられている³⁹。

39 韓国で非識字者数は、統計庁のウェブページ (<http://www.kostat.go.kr>) から調べる事ができる。人口総調査における教育程度別の人口調査がそれである。小学校課程の潜在的需要者（未就学と小学校中退）、中学校課程の潜在的需要者（小学校卒業と中学校中退）を選択し検索できる。性別や年齢別、地域を限定して調べることが可能なのである。

例えば、中学校学歴未満の成人（成人識字教育潜在的需要者）は、2015年の統計庁人口調査では、20歳以上の人口（39,551,621人）の13.1%（5,172,596人）である。小学校課程の潜在的需要者が4.1%（1,631,393人）で、中学校課程の潜在的需要者が9.0%（3,541,293人）であった（교육부（평생학습정책과）「2017년 성인문해교육활성화 지원 기본계획」2017.2. p.15より）。

(1) 調査ツールの開発をめぐる⁴⁰

成人の識字能力を測定する独自の調査ツールの開発に向けて、国家平生教育振興院は2013年に研究者たちに「国民基礎文解力測定道具開発」という受託研究を依頼した。研究は、成人教育、社会教育、識字教育、教育評価の研究者が中心となり、韓国語教育や数学、社会科の関係者は問題項目の諮問にかかわることになっていた。この研究結果に基づき、調査の枠組みが決定され、2014年の「成人文解能力調査」実施へとつながる。

調査ツールは、これからの識字教育政策との関係の中で、政策の対象者を掘り起こすとともに、政策の成果を確認することを目的としていた。もちろん、韓国教育開発院による調査と国立国語院の調査はあるものの、識字教育政策の根拠となるより正確なデータが必要であったことも見落とせない。従来は調査ツールを改良・修正するのではなく、独自のものを開発することを目指し、イギリス、ドイツ、フランスの識字調査ツールを参考にしながら、識字教育・社会教育の専門家対象のデルファイ調査で識字領域や測定水準などを定めることになる。小学校6年生や中学生3年生を含めた400人を対象としたプレ・テストを経て確定した中学校までの識字レベルの識字能力を測定することが目指された。

この調査ツールの特徴としては、1つは、「SQCモデル」である。small quick and cheapという原則の中で早く手軽に測定できるツール開発が図られた。もう1つは、生活識字を大事にしていることである。「生活」という文脈の中で識字力の測定が重視され、日常生活に直接かかわる内容で問題項目を設定するようにした。そして、2014年秋に第1回目の調査が、3年後の2017年秋に2回目の調査が、18歳以上の成人約4千人を対象に実施された。

40 本項は、박소연·이지혜·허준「성인 기초 문해력 조사문항 개발을 위한 문해영역 및 수준 설계」(『平生教育學研究』 Vol. 20 No. 3, 2014年) 及び研究者Aさんへのインタビュー調査(2019年7月17日)に基づくものである。インタビューに関しては許可を得て録音し、内容確認を行っている(注45の国家文解教育センターのインタビュー調査においても同様)。

(2) 「成人文解能力調査」(2017年)の概要⁴¹

第2次「成人文解能力調査」は、2017年9月から11月の2か月にかけて4,004人を対象に面接調査で行われた。調査紙は、30分程度を予想して作られており、全43問の問題項目(A類型3問、B類型20問、C類型20問)である⁴²。識字領域としては、IALS(OECD成人能力国際比較調査)の基準に従って散文識字(21問)、文書識字(14問)、数理識字(8問)で構成している。生活領域は、日常で識字が使われる家庭生活、経済生活、公共生活、余暇生活、メディア生活の5つに区分しており、記述式(27問)と選択式(16問)の問題が混在している。詳しい測定項目は、以下のとおりである。

<表4> 「成人文解能力調査」(2017年)の調査測定項目

区分	A類型(3問)	B類型(20問)	C類型(20問)
生活領域	余暇(3)	家庭(12)、メディア(2)、余暇(6)	経済(10)、公共(8)、余暇(2)
識字領域	散文(2)、数理(1)	散文(11)、文書(6)、数理(3)	散文(8)、文書(8)、数理(4)

出展：국가평생교육진흥원『2017년 성인문해능력조사』, 2018년, p.11.

問題項目は、非公開であるために具体的な内容を知ることはできないが、調査の問題項目構成図に問題の内容が挙げられているので、推測することは可能である。生活に密着したものが想定され、例えば、薬の服用方法や電子レンジの使い方などに関する問題で構成される(【参考資料④】)。

そして、調査における識字能力は、次のように定義されている⁴³。

41 국가평생교육진흥원『2017년 성인문해능력조사』, 2018년.

42 ほかに、調査対象者の統計的背景に関する10の問題項目(D類型)がある。また、A類型は文字が分かるかどうかを測定している。従って、初級レベルの識字能力を知るために、選択式ではなく記述式の問題項目にし、書く能力を合わせて判別できるようにしている。また、B類型は小学校レベルを、C類型は中学校レベルを測定するという仕組みで設計されている。

43 국가평생교육진흥원『2017년 성인문해능력조사』, 2018년, p.6.

識字能力は、単に文字の読み書きができる能力ではなく、日常生活を営為するにあたって必要な基本的な能力である。平生教育法においても、「識字」(「平生教育法」第2条第3号)は日常生活を営為するに必要な文字解得能力を含んだ社会的・文化的に要請される基礎生活能力として定義されている。本調査においては、このような文脈から「識字能力」を、日常生活と問題解決の関係の中で必要な能力として規定して調査を行う。

第2次調査の結果は、次の<表5>のとおりである。

<表5> 「成人文解能力調査」(2017年)の調査結果

区分	レベルの定義	比率(%)	推定人口(人)
レベル1	日常生活に必要な基本的な読み書き計算が不可能なレベル(小学校1～2年生の学習が必要な水準)	7.2	3,111,378
レベル2	基本的な読み書き計算は可能であるが、日常生活を営為するには不十分なレベル(小学校3～6年生の学習が必要な水準)	5.1	2,173,402
レベル3	家庭生活と余暇生活など、単純な日常生活の問題を解決する程度の識字力はあるが、公共生活と経済生活など、複雑な日常生活の問題解決には不十分なレベル(中学校1～3年生の学習が必要な水準)	10.1	4,328,127
レベル4以上	日常生活を営為するのに十分な識字力を備えているレベル(中学校学歴以上の水準)	77.6	33,365,908
全体		100.0	42,978,815

出展：국가평생교육진흥원『2017년 성인문해능력조사』, 2018년, p.8.

*本調査において、非識字は、日常生活に必要な基本的な識字能力が不十分な「レベル3」までを指す。「レベル1」は政策的に教育支援が最も急がれる対象で「完全非識字」に該当する。

識字教育の対象は、日常生活に必要な識字能力が不十分なレベル1からレベル3までとされ、読み書き計算ができない非識字率は、7.2%とされている。調査結果は、性別、所得別、地域別といった属性によっても公表され、女性・80代・1ヶ月の所得100万ウォン未満・農山漁村に非識字者が多い。この全体

的な傾向は2014年と変わらないが、レベル1からレベル4までの比率は少し変動があった。

〈表6〉 2014年調査と2017年調査の比較

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	
2014年調査	6.4%	6.0%	16.2%	71.4%	レベル1の対象者は264万人と推算
2017年調査	7.2%	5.1%	10.1%	77.6%	レベル1の対象者は311万人と推算

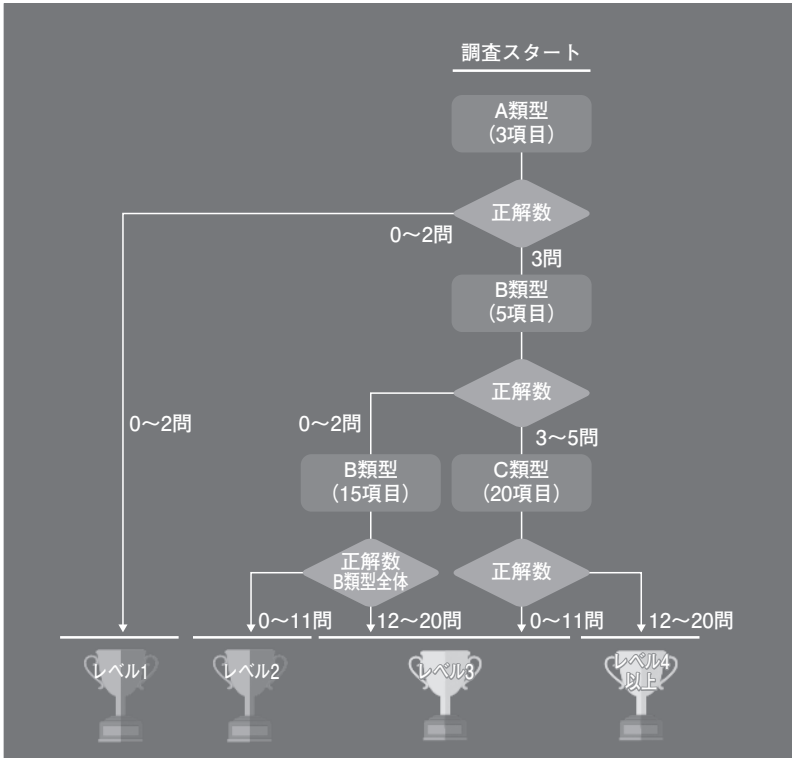
出典：국가평생교육진흥원『2014년 성인문해능력조사』(2015년, p.15)及び『2017년 성인문해능력 조사』(2018년, p.8)より作成。

(3) 2014年調査との違い

2回実施された「成人文解能力調査」において、問題項目の大枠に大きな違いはなく、社会や生活が変化していく中で用語を修正する程度に留めている。しかし、2014年調査から2017年調査で変わったことの1つは、国籍を取得した外国人が調査対象に含まれるようになったことである。つまり、韓国国籍をとった結婚移住女性などが識字調査の対象に含まれるようになったのが1つ目の変化である。しかし、外国ルーツの人々を全体のデータから取り出して分析することはみられなかった。

2つ目の変化は、判定論理の変更である。識字レベルを判定するロジックが変わったのである。2014年の場合、識字能力をレベル1から4までに分けて判定することが目指されていた。次の〈図1〉が2014年調査の分類基準である。

< 図 1 > 2014 年「成人文解能力調査」の分類基準



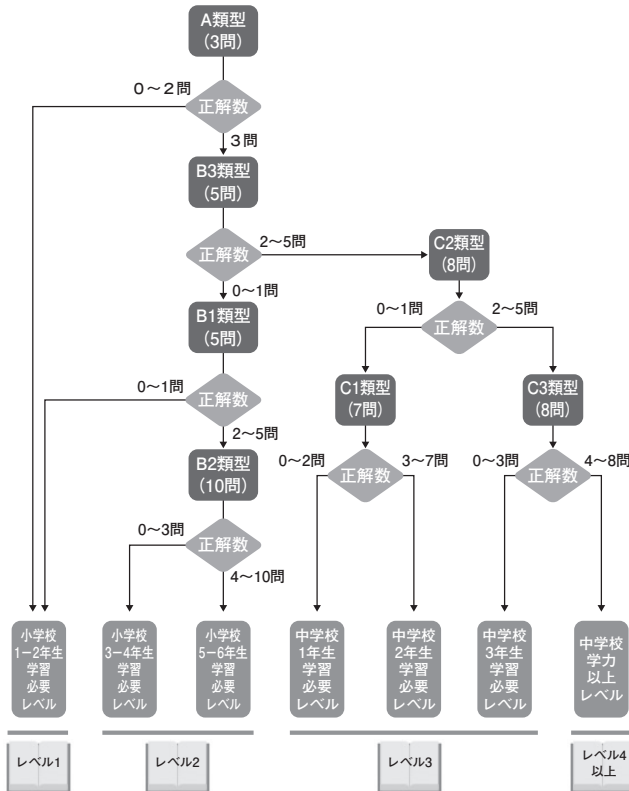
出展： 국가평생교육진흥원 『2014년 성인문해능력조사』, 2015년, p. 12。

つまり、A類型の3つの問題から正解できなかった場合（0～2問正解）が「レベル1」となる。A類型3つをすべて正解したらB類型に移り、次の判別をするための5つの問題を解くこととなる。そこで、2つ以下に正解をした人はB類型を最後まで答えて、その正解の数によって11問以下であれば、「レベル2」となり、12問以上であれば「レベル3」となる。さらに、B類型の判別5問の中で3問以上正解した人は、C類型20問を解くこととなる。そこで、正解の数11を基準に「レベル3」と「レベル4以上」へと分類される仕組みである。

2014年調査においては、4つに分類することになった判定ロジックが、2017年調査となると、レベル1から4までの区分に加えて、もう1つの分類が追加

されている。これは、学歴認定制度⁴⁴ともかかわるもので、全体的な識字能力を把握するだけでなく、学習者個人の識字能力の判断という「診断道具」の機能をも兼ねるようなロジックが加えられたものである。2017年調査の分類体系は、<図2>のとおりである。

<図2> 2017年「成人文解能力調査」の分類体系



出展： 국가평생교육진흥원 『2017년 성인문해능력조사』, 2018년, p.13.

44 学歴認定制度とは、識字教室などで学んだことを、小学校や中学校の卒業資格として認めるもので2011年から始まっている。詳しくは、金命貞・新矢麻紀子「韓国の識字教育における学歴認定制度の評価仕組みの運用と課題」(『基礎教育保障額研究』第4号、2020年)を参照して頂きたい。

これによって、調査の問題項目も順番も変更となった。この判定ロジックだと、A類型の2問以下の正解者は「レベル1」となる。3問以上の正解者は、次のB3類型の問題へと進むが、B3類型は、B類型の中で最も難しい問題項目となり、そこから正解の数でB1類型へと進む人と、C2類型（C類型の中で中間難易度）へと進む人に分けられる。B1類型に進んだ人の中から、「レベル1」と、「レベル2」の小学校3～4年生レベル（小学校学歴認定課程第2段階）及び小学校5～6年生レベル（小学校学歴認定課程第3段階）に分類される。

C2類型では、正解の数1問以下であればC1類型に、2問以上であればC3類型へと進む。さらに、そこからC1類型の正解数によって、中学校1年生レベル（中学校学歴認定課程第1段階）及び中学校2年生レベル（中学校学歴認定課程第2段階）に、C3類型からは、3問以下は中学校3年生レベル（中学校学歴認定課程第3段階）となり（「レベル3」）、ここまでは、識字教育の政策対象となる。C3類型の4問以上の正解者は、中学学歴以上の水準と判定され、「レベル4」となるのである。

このように、2014年調査は、識字能力をもとにレベルを区分するものであったが、2017年調査には、学歴認定課程の学習段階（小学校・中学校）にマッチングできるように、判定の仕組みを修正したという大きな変化があった。さらに、次の調査に向けては、基本的な枠組みはそのまま、用語や概念を時代に合わせて修正するものになる⁴⁵という。

いままで定期的実施されていた識字調査がなかっただけに、時代に合わせて変化していく言葉を更新しながらも、問題項目の調査データを連続的に比較できるように、問題項目の難易度を同じ水準で保っていくことは「難題」であると思われる。また、全体的な識字能力の傾向は把握できるものの、属性に応じた詳細な分析がなされていないことも、これからの課題であろう。

45 国家文解教育センター関係者へのインタビュー調査（2019年7月17日）より。

4. おわりに

韓国で識字調査は、識字問題はないとされた後からも何人かの研究者によって、地域の識字調査が脈々と継続されてきた。識字にかかわる能力を科学的に測定する動きとなったのは、先述したように、1989年の韓国教育開発院による調査研究からである。

この1989年以降の調査において共通してみられるのは、対象が成人であるだけに、かれらが普段接する日常生活から識字問題の項目を作成しており、この傾向は、2014年からの「成人文解能力調査」にも共通してみられるものである。「生活識字」という成人の経験に即しながら、単に文字の読み書きではなく、生活における問題解決能力や機能的識字の流れがみられる。調査対象者が簡単な問題に答えることから、識字の領域を細分化して設定し、生活場面をいくつかに区分して問題項目をつくる動きも、1989年の韓国教育開発院の調査研究からみられ、識字を多層的に捉えて測定する方向へと変わっていることが分かる。

「生活識字」を重視すること、識字を多層的・連続的に捉える傾向が、単に識字「率」を調べる調査から識字「能力」を測る調査へと変わっていく中で、2010年以前は継続的な調査ではなく、韓国の識字の実態を明らかにする目的を達成しながらも、1回性のものに終わっていたために、連続的な変化を示すことはできていなかった。それが、2014年からの「成人文解能力調査」によって可能となる。

ある時期の1回だけの識字調査から継続した識字調査を取り入れるにあたって、もっとも難しいのは、社会の変化を反映しながらも、同じ統計数値として比較できるような問題の難易度を保つこと、同じ土台に載せられる「同一性」をどのように担保していくのか、である。この調査が識字教育政策の必要を示すためのニーズを把握することと、政策の効果を表すことをも目的であることを考えると、より詳細な分析や調査対象の多様化を想定した調査枠組みの見直しも、課題であるといえよう。これは、いまの調査が成人の生活世界に即したものであるだけに、青年や高齢者などの対象ごとの生活世界からの課題を反映

した問題へと多様化を図ることで、一律的な「ものざし」で測るのではなく、識字能力が多面的なものとしてみえてくるであろう。

今までみたように、韓国の識字調査が課題を残しているとはいえ、識字調査の問題項目の設定及び構成、そして、識字レベルの判定基準や測定方法に関しては、日本における識字調査を考える上で示唆を示しているとも思われる。識字調査が長らくなかっただけに、識字調査の関連研究も多いとはいえないのも事実である。

まず、識字をどのように定義するのかをめぐる問題が挙げられる。韓国における識字調査においては、識字概念の定義が時代によって変化しており、それは、政策対象となる「非識字」をどのように判断するのかという判定ロジックの問題にもつながるものである。また、調査項目を決めていく際に、どの領域の識字能力に焦点を当てるのかも課題であろう。識字概念が多様化・多層化している中で、どの識字能力をより優先的に考えるのか。「生活識字」を考え、実際の生活を営為していくうえでどういった識字が求められるのかを綿密に考え、選定すべきである。そして、韓国の識字調査の課題ともつながるものであるが、外国人や青年、高齢者などといった多様な対象の識字能力の測定を、どう考えていくのかも押さえるべき課題である。最後には、韓国と同じく、継続した調査とする場合に、時代の変化を反映しつつも、同じ統計データとして比較できる土台を担保していくことも問われる。日本における識字教育研究において、識字調査をめぐる取り組みべき課題は実に多いのである。

【参考文献】

<日本語>

基礎教育保障学会「識字・基礎教育保障に関する要望書」(2019年12月16日)。

金侖貞・新矢麻紀子「韓国の識字教育における学歴認定制度の評価仕組みの運用と課題」『基礎教育保障額研究』第4号、2020年。

角知行「『日本人の読み書き能力調査』(1948)の再検証」『天理大学学报』56(2)、2005年。

野山広「日本語リテラシー(読み書き)調査の開発に向けた学際的研究-基礎教育を保障する社会の構築を目指して-」『基礎教育保障学会第5回研究大会・要旨集録』2020年。

元木健「国際識字年と日本の識字問題」日本社会教育学会編『国際識字10年と日本の識

字問題』、東洋館出版社、1991年。

尹福南「文解(識字)教育の展開-文字を学ぶ人たち-」黄宗建・小林文人・伊藤長和編著
『韓国の社会教育・生涯学習-市民社会の創造に向けて-』エイデル研究所、2006年。

<韓国語>

강상철 「文解教育을 위한 문해수준 실태조사: 大田지역 事例」『教育發展論叢』 Vol. 12 No. 1, 충남대학교, 1990년 (칸·산초롤「文解教育のための文解水準実態調査-大田地域を事例に-」『教育發展論叢』 Vol. 12 No. 1, 忠南大学, 1990年).

교육부(평생학습정책과) 「2017년 성인문해교육 활성화 지원 기본계획」 2017. 2 (教育部(平生學習政策課) 「2017年成人文解教育活性化支援基本計画」 2017年2月)

국가평생교육진흥원 「2014년 성인문해능력조사」, 2015년 (国家平生教育振興院 『2014年成人文解能力調査』, 2015年).

국가평생교육진흥원 「2017년 성인문해능력조사」, 2018년 (国家平生教育振興院 『2017年成人文解能力調査』, 2018年).

국립국어원 「국민의 국어능력 조사 실시 계획」 (2008. 1. 28) (国立国語院 「国民の国語能力調査実施計画」 (2008年1月28日)).

金宗西 「韓國文盲率의 檢討」 『교육학연구』 Vol. 2, 한국교육학회, 1964년 (金宗西 「韓國文盲率의 檢討」 『教育学研究』 Vol. 2, 韓國教育学会, 1964年).

김창원 외 『국민의 기초문해력조사』 국립국어원, 2008년 (Kim·Chanwonほか 『国民の基礎文解力調査』 国立国語院, 2008年).

박소연·이지혜·허준 「성인기초문해력 조사문항 개발을 위한 문해영역 및 수준설계」 『平生教育學研究』 Vol. 20 No. 3, 2014년 (박·소연, 이·지혜, 허·준 「成人基礎識字力調査の問題項目開発のための文解領域及び水準設計」 『平生教育学研究』 Vol. 20, No. 3, 2014年).

윤준채 「문해력의 개념과 국내외의 연구경향」 『새국어생활』 제19권 제2호, 2009년 (윤·준채 「文解力의 概念と国内外の研究傾向」 『新国語生活』 第19卷第2号, 2009年).

이지혜, 허준 「평생학습정책 기반조성을 위한 성인 문해력조사 비교연구 - 영국, 프랑스, 독일사례를 중심으로 -」 『비교교육연구』 제24권 제3호 2014년 (이·지혜·허·준 「平生學習政策の基盤造成のための成人文解力調査比較研究-イギリス, フランス, ドイツの事例を中心に-」 『比較教育研究』 第24卷第3号, 2014年).

이희수 「우리나라 성인문해 실태조사의 의의와 정책적 시사」 『한국성인의 문해실태와 발전과제 세미나』 한국교육개발원, 2001년 (이·희수 「我が国の成人文解実態調査の意義と政策的示唆」 『韓国成人の文解実態と發展課題のセミナー』 韓国教育開發院, 2001年).

이희수 외 『한국 성인의 문해실태 및 OECD 국제비교조사연구』 한국교육개발원, 2001년

- (イ・ヒスほか『韓国成人の文解実態及びOECD国際比較調査研究』韓国教育開発院、2001年).
- 이희수 외『한국 성인의 비문해실태 조사연구』한국교육개발원, 2002년 (イ・ヒスほか『韓国成人の非文解実態調査研究』韓国教育開発院、2002年).
- 이희수, 박현정, 이세정「한국 성인의 문해실태와 OECD 국제비교연구」『비교교육연구』 제13권 2호, 한국비교교육학회, 2003년 (イ・ヒス、パク・ヒョンジョン、イ・세ジョン「韓国成人の文解実態と OECD 国際比較研究」『比較教育研究』第13卷2号、韓国比較教育学会、2003年).
- 鄭址雄・金善堯「農村婦女會 購販事業活動過程에 나타난 農村婦女子의 知的水準」『韓國農業教育學會誌』第7卷第1號, 1975년 (鄭址雄・金善堯「農村婦女會の購買事業活動過程でみられた農村婦女子の知的水準」『韓国農業教育学会誌』第7卷第1号、1975年).
- 鄭址雄・崔敏浩・金性洙・任相奉「韓國農村女性의 文解水準」『韓國農業教育學會誌』第21卷第1號, 1989년 (鄭址雄・崔敏浩・金性洙・任相奉「韓国農村女性の文解水準」『韓国農業教育学会誌』第21卷第1号、1989年).
- 中央教育研究所『文盲者調査<1959年12月31日現在>-調査研究第5輯-調査者:金宗西』大韓教育聯合會, 1961년 (中央教育研究所『文盲者調査<1959年12月31日現在>-調査研究第5輯-調査者:金宗西』大韓教育連合会、1961年).
- 최운실・백은순・최상근『한국인의 문해실태조사연구 1차년도』한국교육개발원, 1989년 (チェ・ウンシル、백・운스ん、チェ・상근『韓国人の文解実態調査研究1次年度』韓国教育開發院、1989年).
- 최운실, 백은순『한국의 문해 실태와 문해교육』한국교육개발원, 1990년 (チェ・ウンシル、백・운스ん『韓国の文解実態と文解教育』韓国教育開發院、1990年).

【参考資料①】 基礎及び生活技能識字調査紙の問題項目構成（韓国教育開発院、1990年）

構成		問題内容
第1部	初歩的な文字識字	1) ハングルで名前を書く 2) 絵を見て数字を把握する 3) 時計を読む
第2部	基礎識字（読み書き計算）	4) 広告文の解読 5) 文章の要旨の把握 6) 文章をつくる 7) 足し算・引き算 8) 掛け算 9) 割り算
第3部	生活機能識字	10) 電話をかける 11) 手紙の宛先の解読 12) 転出届けの作成 13) 現金への振込証の作成 14) 観光案内文を読む 15) テレビ番組の解読 16) 薬の服用案内文の解読 17) 高速バスの時間割の解読 18) 地下鉄路線図の解読 19) 生活漢字の解読 20) 生活英語及び外来語の解読

出展: 최운실, 백은순 『한국의 문해 실태와 문해 교육』 한국교육개발원 1990년, pp.20-21より抜粋作成。

【参考資料②】 識字調査領域別の問題項目構成（韓国教育開発院、2002年）

問題項目	領域	下位領域	難易度
1	読む	内容理解／文章の内容を把握する	下
2	読む	内容理解／文章の内容を把握する	下
3	計算	数／自然数を読む・書く	中
4	計算	演算／掛け算	中
5	読む	表記解読／記号・象徴の理解	中
6	読む	内容理解／内容の推論と対比	上
7	計算	関係／図表とグラフの理解	下
8	計算	関係／比率	上
9	書く	文章を書く／簡単な文書を作成する	中
10	書く	記号・符号を書く／文章の符号を正しく書く	中

11	書く	単語を書く／綴り方に沿って正しく書く	上
12	計算	測度／長さの単位	下
13	書く	文章を書く／自分の主張と意見を表現する	中
14	読む	単語・文章の理解／日常生活の中での英語単語の理解	中
15	読む	単語・文章の理解／日常生活の中での英語単語の理解	中
16	計算	演算／引き算	中
17	書く	文章を書く／言葉を使って短い文章を書く	中
18	計算	演算／足し算	中
19	書く	単語を書く／適した言葉を入れて完成する	下
20	計算	演算／割り算	中
21	読む	単語・文章の理解／言葉の意味が分かる	上
22	読む	単語・文章の理解／文章を読んで適した言葉が分かる	中
23	読む	単語・文章の理解／文章の呼応関係を知る	中
24	書く	文章を書く／簡単な文書を作成する	中
25	計算	測度／長さ、体積、重さ、時間の単位計算	上

出展：이희수 외 『한국 성인의 비문해실태 조사연구』 한국교육개발원, 2002년, p.89より作成。

【参考資料③】国民の基礎文解力評価問題項目の主な内容（国立国語院、2008年）

問題番号	区分	領域	内容
1	教養	事实的理解	フォーク・ダンス
2	実用	事实的理解	不動産情報
3	教養	批判的理解	新技術・通信
4	実用	事实的理解	招待状
5	実用	推論的理解	家庭通信文
6	実用	推論的理解	法令文
7	実用	推論的理解	天気予報
8	実用	事实的理解	転入届
9	実用	推論的理解	郵便局における用務
10	実用	推論的理解	服薬説明書
11	実用	事实的理解	案内文
12	教養	事实的理解	投票参加者への優遇制度
13	実用	事实的理解	現金振り込み証
14	実用	推論的理解	商品保証約款
15	実用	事实的理解	天気図

16	実用	事实的理解	セールチラシの一部
17	教養	推論的理解	世界の時間
18	実用	批判的理解	求人広告
19	実用	事实的理解	名刺
20	教養	事实的理解	事典の活用
21	実用	事实的理解	略図
22	実用	批判的理解	カルチャーセンター
23	実用	推論的理解	公益広告
24	実用	事实的理解	図書紹介
25	実用	推論的理解	テレビ番組表

出展：김창원 외 『국민의 기초문해력조사』 국립국어원, 2008년, p.51 より作成。

【参考資料④】「成人文解識字能力調査」（2017年）の質問項目構成図

番号	識字領域	細部領域	生活領域	項目内容	形式
A1	散文	情報伝達	余暇	旅行案内を読む	記述式
A2	散文	情報伝達	余暇	地名を書く	記述式
A3	数理	数と演算	余暇	数字を読む	記述式
B3-1	文書	表	家庭	バスの時間割を読む	記述式
B3-2	散文	情報伝達	家庭	歌の歌詞の綴り方	記述式
B3-3	文書	書式	家庭	宅急便の書式を作成する	記述式
B3-4	数理	数と演算	家庭	宅急便の料金計算	記述式
B3-5	文書	グラフ	家庭	電気料金の比較	記述式
B1-1	文書	地図	余暇	登山路を読む	記述式
B1-2	数理	測定	余暇	登山路の距離計算	記述式
B1-3	散文	説得文	メディア	公益広告ポスターの理解	選択式
B1-4	散文	情報伝達	家庭	薬の服用方法の理解	記述式
B1-5	散文	測定	家庭	薬の服用量の測定	記述式
B2-1	文書	表	家庭	家庭通信文における表の内容理解	記述式
B2-2	文書	グラフ	家庭	電気使用量の比較	選択式
B2-3	数理	表	余暇	旅行日程の計算	記述式
B2-4	散文	情報伝達	余暇	フェスティバルの説明文の理解	記述式
B2-5	散文	生活文	家庭	お手紙の綴り方	記述式
B2-6	散文	生活文	家庭	お手紙の内容の理解	選択式

B2-7	散文	情報伝達	メディア	携帯電話の文字情報の理解	記述式
B2-8	散文	情報伝達	余暇	インターネット情報の理解	選択式
B2-9	散文	情報伝達	余暇	インターネット情報の再構成	記述式
B2-10	散文	情報伝達	家庭	電子レンジの使い方の理解	記述式
C2-1	散文	説得文	公共	エネルギー節約公約ポスターの理解	選択式
C2-2	数理	数と演算	公共	節約電気料金計算	記述式
C2-3	散文	情報伝達	経済	入出金通帳の案内文の理解	選択式
C2-4	文書	書式	公共	転入申告書作成方法の理解	選択式
C2-5	文書	表	公共	病院の診療時間表の理解	記述式
C1-1	散文	情報伝達	経済	国民年金のお知らせの理解	選択式
C1-2	文書	表	経済	国民年金の受給年齢表の理解	記述式
C1-3	文書	書式	経済	不動産の売買契約書の理解	記述式
C1-4	文書	書式	経済	不動産の売買契約書の理解	選択式
C1-5	散文	文学	余暇	文学作品の理解	選択式
C1-6	散文	文学	余暇	文学作品の理解	選択式
C1-7	文書	表	公共	ガン検診対象者表の理解	記述式
C3-1	文書	グラフ	公共	交通事故発生現況グラフの理解	選択式
C3-2	文書	表	公共	交通事故発生死亡者の数を探す	記述式
C3-3	散文	情報伝達	経済	最低賃金の記事の理解	選択式
C3-4	数理	統計確率	経済	最低賃金の年度別グラフの理解	選択式
C3-5	散文	情報伝達	経済	標準勤労契約書の理解	選択式
C3-6	数理	数と演算	経済	1年間の給与計算	記述式
C3-7	散文	情報伝達	公共	事前投票の案内文の理解	選択式
C3-8	数理	関数	経済	支出比率に対する生活費の計算	記述式

出展： 국가평생교육진흥원 『2017년 성인문해능력조사』, 2018년, p.12より作成。

* 本稿は、科学研究費補助金基盤研究 (C) (平成30年～令和2年度)「東アジア先進国における基礎教育保障モデルの構築にむけた日韓比較研究」(課題番号：18K02350、研究代表者：添田祥史)による成果の一部である。